

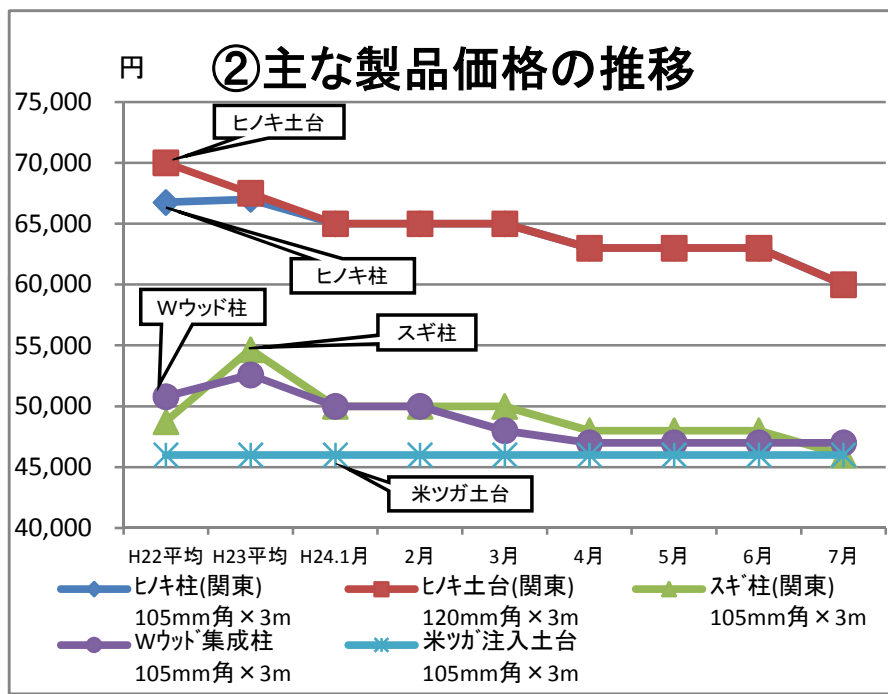
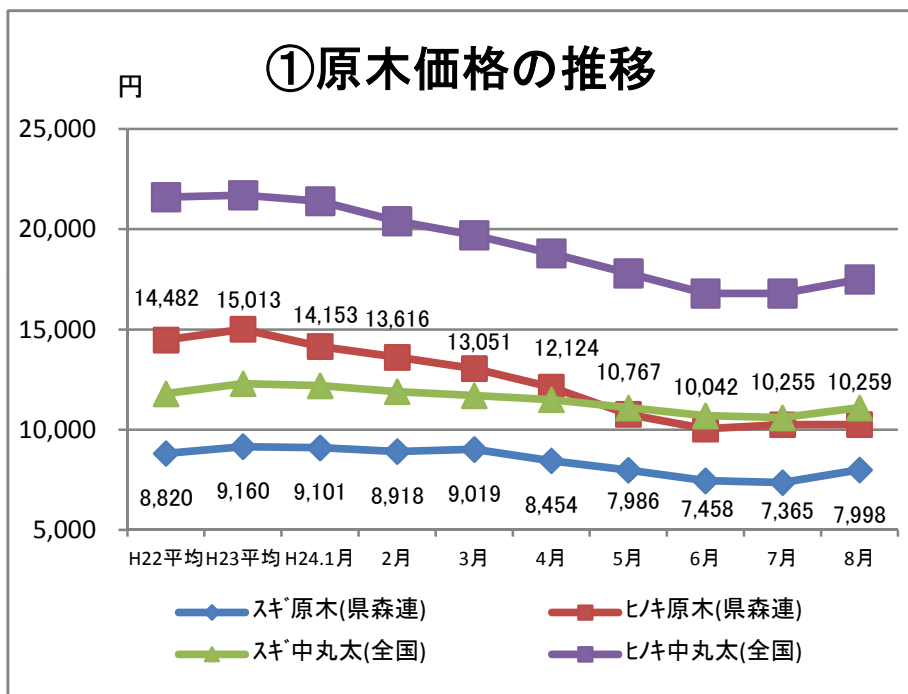
原木価格の低迷について

1. 木材価格の推移

原木価格は、全国的には年初から急落後、8月に小戻す。高知県は、全国に比較し回復が鈍い。

※本県が全国でもトップクラスの資源を有するヒノキについては、1～6月まで急落。

国産材製品価格は、原木価格よりは安定しているが、弱保合から、7月に下押し。



2. 木材需給の状況

(1)住宅着工数(木造:1月～6月期)

全国的には増加、高知県はH22、23年(同期)並み。

- ・木造住宅(全国) ⇒⇒⇒ H22年(1～6月):211千戸、H23(同期):214千戸、H24(同期):223千戸
- ・木造住宅(高知) ⇒⇒⇒ H22年(1～6月):782戸、H23(同期):776戸、H24(同期):785戸

(2)原木市場出荷状況(高知県森林組合連合会)

- ・平成23年の原木出荷量は、233,378m³(増加:23,556m³、対前年比:111.2%)。単価は上昇。
- ・平成24年(1～8月)の原木出荷量は、平成23年同期比で2割程度の増加。単価は下落。

区分	H22年	H23年	H22年(1～8月)		H23年(1～8月)		H24年(1～8月)		
			実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比	
スギ	出荷量(m ³)	127,932	139,995	80,128	—	84,514	105.5%	101,806	120.5%
	平均単価(円)	8,820	9,160	8,709	—	9,201	105.6%	8,287	90.1%
ヒノキ	出荷量(m ³)	81,890	93,383	51,220	—	57,525	112.3%	67,115	116.7%
	平均単価(円)	14,482	15,013	14,459	—	14,879	102.9%	11,783	79.2%
計	出荷量(m ³)	209,822	233,378	131,348	—	142,039	108.1%	168,921	118.9%

(3)ヒノキ材の用途等(H24年6月 聞き取り調査)

- ①高級普請の住宅(真壁工法等)等
- ②防腐処理をしない土台材
- ③従来からヒノキ材を使用する(中小の)地域ビルダー

※地域ビルダーは、使用量が限られており、住宅(部材)の仕様を変更するおそれが少ない。

3. ヒノキの価格低下に関する聞き取り調査(H24年6月)

(1)住宅建築コストの抑制

- ①住宅はローコスト志向。(柱が見えない)大壁工法では、木材(樹種)へのこだわりはない。
- ②住宅に太陽光発電等の新しい機能を付加する傾向がある一方、住宅取得価格総額を抑制する方向。

(2)木材市況の影響

- ①急激な円高を背景に、構造材の仕様を安価な欧州材等に変更。
 - ・柱 : ヒノキ ⇒⇒⇒ スギ、ホワイトウッド集成材
 - ・土台: ヒノキ ⇒⇒⇒ 米ツガ防腐処理材、レッドウッド集成材
- ②中国地方の大手製材業者が年明けからヒノキの取り扱いを停止(現在は取扱いを開始)。

●住宅のローコスト化、為替変動などの影響により単価の高いヒノキの需要が減少する中、多くの原木が供給され、需給バランスが大きく崩れた。ヒノキはマーケットが小さく、原木価格に大きく影響した。